

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率 月次指標の早期推計：9月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: contact@apir.or.jp

ポイント

●10月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表4)、9月の訪日外客総数(推計値)は326万6,800人であった。前年同月比+13.7%と増加幅は前月の同+16.9%から縮小するも、2カ月連続で2桁台の伸びを維持した。また、同月の出国日本人数は139万4,500人であった(同+15.0%)。なお、2019年同月比では-20.4%と、減少幅は前月の同-21.9%から小幅縮小した。結果、1-9月期累計の訪日外客数は3,165万493人(前年同期比+17.7%)となり、過去最速で3,000万人を突破した。一方、同期の出国日本人数は1,085万7,210人であった(同+14.3%)。

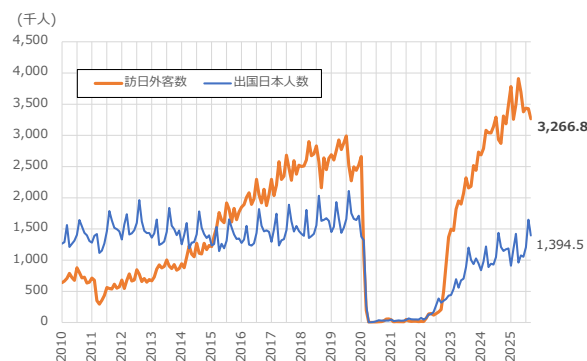
▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表4)、9月は中国が77万5,500人(前年同月比+18.9%)と最多であった。次いで韓国が67万500人(同+2.1%)、台湾が52万7,000人(同+12.0%)、米国が22万4,700人(同+17.1%)、香港が14万9,500人(同-12.2%)と続く。なお、SNS等による誤情報の影響から、香港は5カ月連続の減少となった。

▶目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図3及び表5)、7月は343万7,118人(前年同月比+4.4%)。うち、観光客は316万1,501人(同+3.5%)、7月として過去最高値を更新した。その他客は17万7,111人(同+25.3%)、商用客は9万8,506人(同+2.6%)であった。

▶大阪・関西万博の開幕から約1カ月が経過した。本レポートではこれまで万博開幕を契機に、関西各自治体が行った観光誘客策を紹介してきた(詳細はNo.68~74)。今回は万博閉幕後に実施されている鳥取県の誘客策の事例を取り上げ、その特徴をみよう。

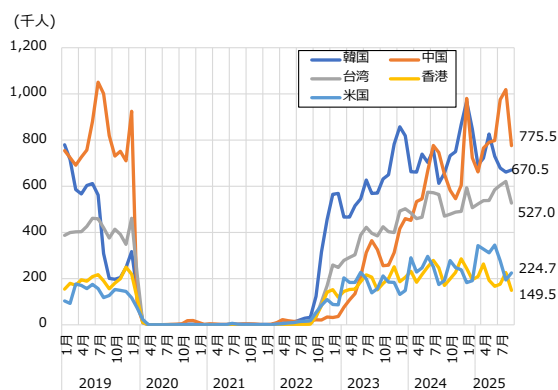
▶鳥取県では、アフター万博を鳥取県で楽しんでもらうために「万博ロスは鳥取で」をテーマに、1)「アフター万博ウェルカニキャンペーン(10月14日~3月19日)」、2)「アフター万博砂ンブラリー(11月1日~3月31日)」などを実施している(詳細はURL参照：<https://www.pref.tottori.lg.jp/325693.htm>)。具体的には、1)では鳥取県に宿泊した人に対して、抽選で県の特産品(蟹)がプレゼントされる。2)では、県内の観光施設に関西パビリオンのヨルダン館のスタンプが設置される。特徴的なのは、**県内の特産品のみならず万博の展示内容(レガシー)をも活用し、県内周遊を図っていること**である。こうした取組を国内客のみならず海外客に訴求することができれば、関西広域観光がより一層促進されることに繋がろう。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



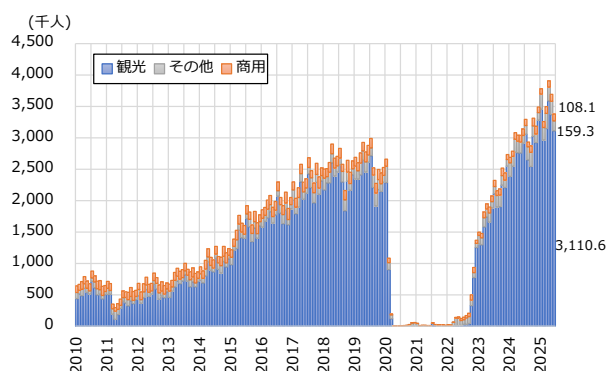
注：2023年まで確定値、24年、25年7月は暫定値、25年8-9月は推計値
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5の国・地域は値を表示している
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図3 目的別訪日外客数推移



注：目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待つ今後再開する予定である。

トピックス 1

● 9 月関西の財貨・サービス貿易及びサービス産業動向

▶ **関西 9 月の輸出額は**前年同月比+3.9%と **12 カ月連続で増加**し、増加幅は前月の同+0.7%から拡大した。一方、**輸入額は**同-1.0%と **3 カ月連続の減少**(前月：同-8.9%)。このため、**関西の貿易収支は**+2,830 億円と **8 カ月連続の黒字**(図 4)、**黒字幅は**同+45.3%と **5 カ月連続で拡大**した(前月：同+101.2%)。

▶ 対中国貿易動向をみると(図 5)、**関西 9 月の対中国輸出は**前年同月比+3.8%と **2 カ月ぶりに増加**した(前月：同-0.2%)。輸出増に寄与したのは、半導体等電子部品や原料品等であった。また、**対中国輸入は**同+0.2%と **2 カ月連続の小幅増加**(前月：同+0.8%)。輸入増に寄与したのは事務用機器、がん具及び遊戯用具等であった。

▶ **9 月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は 83 万 6,526 人**であった。前年同月比+13.3%と増加幅は前月(同+20.3%)から縮小したが、2 カ月連続で 2 桁の伸びとなった。同月の日本人出国者数は 27 万 411 人で、前年同月比+18.4%と増加幅は 3 カ月連続で拡大した(前月：同+17.9%)。なお、2019 年同月比では-19.8%と、依然コロナ禍前の水準は下回っているが、減少幅は 3 カ月連続で縮小した。今般の日中関係の悪化による中国人客の訪日旅行への影響は無視できない。**1-8 月累計の関空への訪日外客総数に占める中国人客数のシェアは 35.5%**と、同期間の**全国シェア(23.6%)**に比して**+11.8%ポイント高く、関西への影響が強めに**出よう。また参考となるのが、2012 年 9 月の尖閣諸島国有化の事例である。中国人客は 12 年 10-12 月期から 4 四半期連続で前年同期比減少しており、影響が出尽くすのに 1 年かかっている。このため、今回の日中関係悪化の影響については比較的長めの時間視野での注視が必要である(Kansai Economic Insight Quarterly No.76 のトピックスにて取り上げる予定である)。

▶ サービス業の生産活動を示す**第 3 次産業活動指数**(季節調整済み：2019-20 年平均=100)をみれば(図 7)、9 月は 105.1 で前月比+0.3%と**小幅ながら 3 カ月連続のプラス**となった(前月：同+0.1%)。経済産業省は基調判断を「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動き」と前月から据え置いた。また、同月の**対面型サービス業指数***は 106.2 で同+0.8%と、2 カ月連続のプラス(前月：同+0.2%)。うち、運輸業、郵便業(同+4.7%、4 カ月ぶり)や学習支援業(同+0.0%、2 カ月ぶり)等が上昇に寄与した。結果、**7-9 月期の第 3 次産業活動指数は前期比+0.4%と 3 四半期連続のプラス**(4-6 月期：前期比+0.4%)。一方、**対面型サービス業指数**は同+0.0%とほぼ横ばいであった。

▶ 9 月の**観光関連指数****(季節調整済み：2019-20 年平均=100)は(図 7)、112.0 と前月比-3.3%低下し、2 カ月ぶりのマイナス(前月：同+5.0%)。うち、宿泊業、飲食サービス業(同-3.1%、2 カ月ぶり)や劇場・興行団(同-11.4%、2 カ月ぶり)等が低下に寄与した。7-9 月期の中では前期比-0.1%と 2 四半期連続で低下した(4-6 月期：同-1.1%)。

*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

**観光関連指数は第 3 次産業活動指数のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指数の加重平均。

図 4 関西 対世界貿易の推移

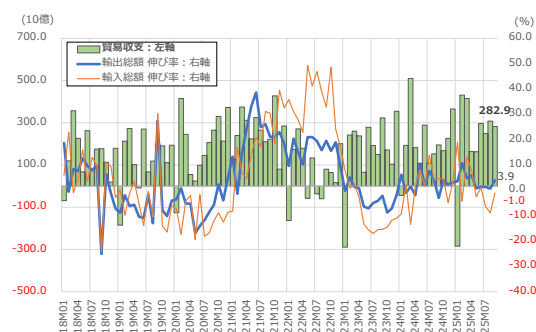
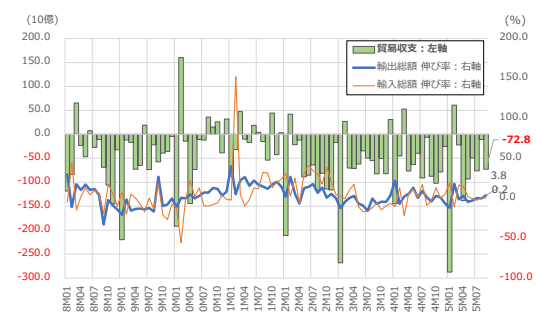
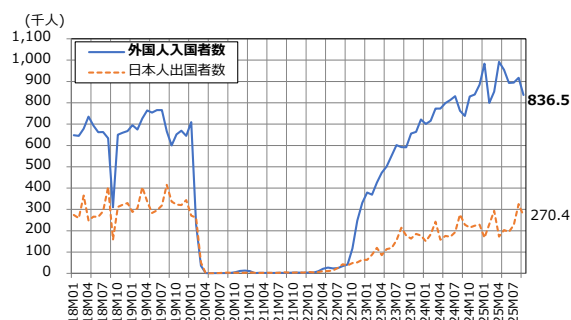


図 5 関西 対中貿易の推移



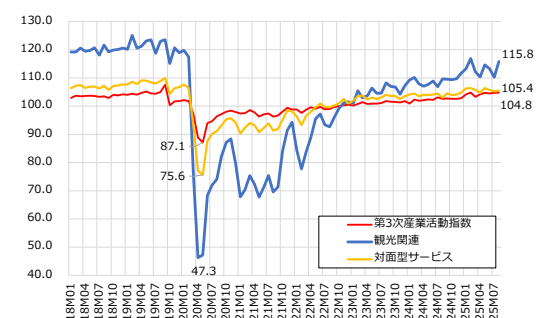
出所：「大坂税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図 6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。
2025 年 9 月値は速報値

図 7 観光関連 対面型サービス 第 3 次産業：
2019-20 年平均=100



出所：経済産業省「第 3 次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

● 7月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、7月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**11,324.1 千人泊**(表1)。**前年同月比-3.3%**と2021年10月(同-4.2%)以来のマイナスに転じた。

▶日本人延べ宿泊者数は**7,507.6 千人泊**となった。**前年同月比+0.1%**と3カ月連続の増加だが、**小幅伸びにとどまった**(前月：同+1.1%)(表1及び図8)。**府県別**に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,680.4 千人泊、兵庫県 1,170.8 千人泊、京都府 1,159.7 千人泊、三重県 795.2 千人泊、滋賀県 369.6 千人泊、和歌山県 362.7 千人泊、福井県 333.8 千人泊、奈良県 214.1 千人泊、徳島県 212.5 千人泊、鳥取県 208.8 千人泊であった。関西7月の前年同月比(+1.1%)に対する寄与度をみれば、**三重県**(同+1.4%ポイント)、**大阪府**(同+1.2%ポイント)や**徳島県**(同+0.4%ポイント)等、5府県が増加に寄与した。一方、減少に寄与したのは、**兵庫県**(同-1.3%ポイント)、**京都府**(同-0.7%ポイント)や**福井県**(同-0.6%ポイント)等、5府県であった。

▶外国人延べ宿泊者数は**3,816.5 千人泊**であった(表1及び図9)。**前年同月比-9.5%**と2022年3月(同-2.8%)以来のマイナスに転じた。SNS等を通じた誤情報の影響が表れた。**府県別**に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 1,935.2 千人泊、京都府 1,508.9 千人泊、兵庫県 159.0 千人泊、和歌山県 74.8 千人泊、奈良県 49.2 千人泊、三重県 23.2 千人泊、鳥取県 22.9 千人泊、滋賀県 20.9 千人泊、徳島県 16.2 千人泊、福井県 12.8 千人泊であった。**前年同月比(-9.5%)への寄与度をみれば、大阪府**(同-11.5%ポイント)、**滋賀県**(同-0.0%ポイント)、**徳島県**(同-0.0%ポイント)等、**3府県が外国人延べ宿泊者の増加に寄与した**。

▶なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金：2019年=100)をみれば、2025年9月は**65.8**となった。前年同月比-3.7%と30カ月連続で悪化した。依然として日本人宿泊者にとっては厳しい状況が続いている(図10)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

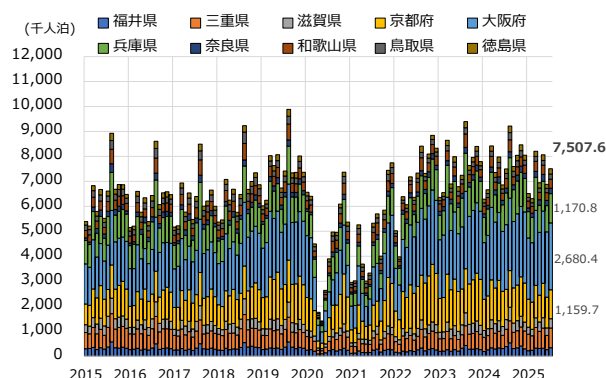


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

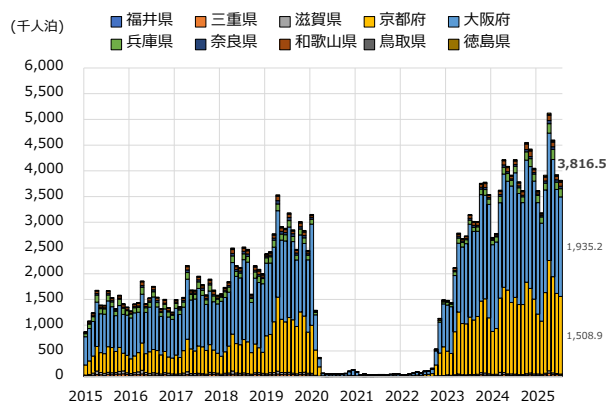
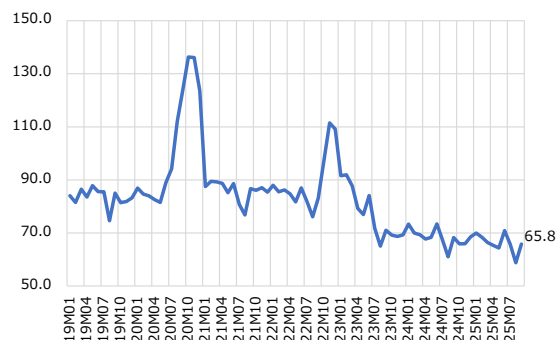


図10 宿泊料金と賃金の交易条件
(現金給与総額/宿泊料金)



注：宿泊料金(消費者物価)と賃金(現金給与総額)の相対的関係をみている。2019年平均を100。

出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』より筆者作成

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：7月

2025年7月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	340.0	-12.3	-13.2	333.8	-12.6	-14.1	6.2	8.0	29.9
三重県	818.4	14.6	9.5	795.2	14.8	7.4	23.2	5.3	69.2
滋賀県	390.5	-4.8	-15.4	369.6	-4.9	-14.6	20.9	-2.2	-25.8
京都府	2,668.7	-1.4	-0.5	1,159.7	-4.4	-12.7	1,508.9	1.1	11.9
大阪府	4,615.6	-7.9	-0.6	2,680.4	3.5	8.9	1,935.2	-20.0	-10.6
兵庫県	1,329.8	-4.8	1.5	1,170.8	-7.8	-1.2	159.0	25.1	27.0
奈良県	263.3	15.9	23.1	214.1	10.7	16.5	49.2	45.6	65.3
和歌山県	437.5	-3.5	11.0	362.7	-5.8	8.3	74.8	9.8	24.8
鳥取県	231.7	8.2	3.8	208.8	2.9	0.0	22.9	105.1	75.7
徳島県	228.7	16.3	5.5	212.5	17.8	2.6	16.2	-0.1	48.1
関西2府4県	9,705.4	-4.9	0.0	5,957.4	-1.4	0.4	3,748.0	-10.0	-0.5
関西2府8県	11,324.1	-3.3	0.3	7,507.6	0.1	0.4	3,816.5	-9.5	0.2
全国	55,746.9	-2.6	-2.4	41,767.7	-2.0	-5.1	13,979.3	-4.2	5.3

注：表中の赤枠は寄与度が高いTOP3を示している。

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(図8~9及び表1)より筆者作成

トピックス 3

● 2025 年 7-9 月期訪日外国人消費の動向

▶観光庁によれば、**2025 年 7-9 月期の訪日外国人消費額**(速報、全目的ベース)は **2 兆 1,310 億円**であった(図 11)(4-6 月期: 2 兆 5,043 億円)。**前年同期比+11.1%**と経済活動が正常化した 24 年以降をみれば **2 桁の伸び**が続いているが、**増加幅**は前期(同+17.0%)から**縮小**した。

▶7-9 月期の**訪日外国人消費のトップ 5** を国・地域別にみれば(図 12)、中国が 5,901 億円(前年同期比+18.0%)と最多であった。次いで、台湾が 3,020 億円(同+10.7%)、米国が 2,215 億円(同+19.9%)、韓国が 2,070 億円(同-10.5%)、香港が 1,139 億円(同-31.6%)と続く。**誤情報の影響を受けた香港は 3 四半期連続で、韓国は 8 四半期ぶりにそれぞれ減少**した。

▶**一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出**(全目的)は 1 万 9,036 円となった。前年同期比-18.8%と 2 四半期連続のマイナスとなり、減少幅は 4-6 月期(同-9.7%)から拡大。国・地域別にみれば、香港が 3 万 2,559 円(同+0.9%)と最も高い。次いで、米国が 3 万 678 円(同+5.3%)、シンガポールが 3 万 210 円(同-13.2%)、台湾が 3 万 115 円(同-13.6%)、中国が 3 万 13 円(同-9.8%)となっている(表 2)。コロナ禍以降、着実に上昇してきた消費単価だが、7-9 月期は多くの国・地域において減少しており、**訪日外客の消費動向に変化の兆し**がみられる。

▶**7-9 月期の 1 人 1 泊当たり旅行支出を費目別**でみれば(表 3)、すべての費目が前年同期から減少した。宿泊費が 7,025 円(前年同期比-12.3%)と最も多く、次いで買物代が 4,739 円(同-28.0%)、飲食費が 4,391 円(同-15.2%)、交通費が 1,896 円(同-26.3%)、娯楽等サービス費が 981 円(同-11.5%)と続く。なお、平均泊数は 11.5 泊と、前年同期差+2.2 泊増加した。

*トピックス 3 は四半期ごとの掲載である。

**「全目的」とは、観光・レジャー目的以外に、業務、留学、親族・知人訪問等の目的の旅行者を含む。ただし、1 年未満の滞在者が対象である。

図 11 訪日外国人消費額の推移

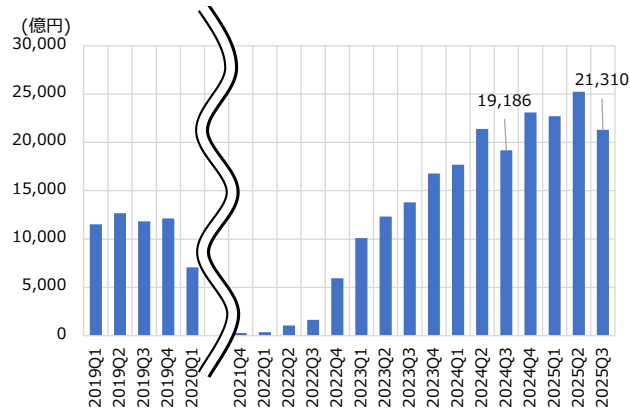
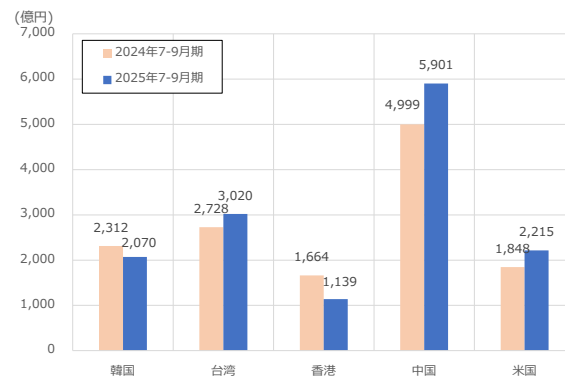


図 12 訪日外国人消費額の上位 5 か国・地域：
2025 年 7-9 月期



注:「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加えビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。「クルーズ客」は船舶観光上陸許可者。2024 年までは確報、25 年 7-9 月期は速報。
出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より作成

表 2 国・地域別一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出(全目的): 2025 年 7-9 月期

国・地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム
2024年7-9月期(円/人)	23,455	28,089	27,828	32,276	30,321	14,722	25,311	14,628	7,790	11,705	6,439
2025年7-9月期(円/人)	19,036	23,255	22,703	32,559	21,135	10,794	17,800	17,007	8,224	9,189	6,682
前年同期比(%)	-18.8	-17.2	-18.4	+0.9	-30.3	-26.7	-29.7	+16.3	+5.6	-21.5	+3.8
国・地域	インド	英国	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	ロシア	米国	カナダ	オーストラリア	その他
2024年7-9月期(円/人)	12,878	20,183	17,759	20,594	32,307	29,722	13,544	23,706	21,287	22,939	17,948
2025年7-9月期(円/人)	10,772	23,887	20,246	14,047	25,817	22,748	24,122	20,477	16,777	24,041	16,733
前年同期比(%)	-16.3	+18.3	+14.0	-31.8	-20.1	-23.5	+78.1	-13.6	-21.2	+4.8	-6.8

表 3 一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出(全目的): 2025 年 7-9 月期

1 人 1 泊当たり旅行支出	総額	費目別						平均泊数(泊)
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2024年7-9月期(円/人)	23,455	8,012	5,176	2,574	1,109	6,581	3	9.4
2025年7-9月期(円/人)	19,036	7,025	4,391	1,896	981	4,739	5	11.5
前年同期比(%)	-18.8	-12.3	-15.2	-26.3	-11.5	-28.0	+39.7	+2.2

出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より作成

表 4 2025 年 9 月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2024年	2025年	伸率 (%)	2024年	2025年	伸率 (%)
	9月	9月		1月～9月	1月～9月	
総数	2,872,487	3,266,800	13.7	26,880,892	31,650,500	17.7
総数(中国除く)	2,220,082	2,491,300	12.2	21,633,101	24,163,300	11.7
韓国	656,753	670,500	2.1	6,468,715	6,793,600	5.0
中国	652,405	775,500	18.9	5,247,791	7,487,200	42.7
台湾	470,635	527,000	12.0	4,585,890	5,036,700	9.8
香港	170,216	149,500	-12.2	1,971,949	1,822,700	-7.6
タイ	45,522	51,300	12.7	751,993	815,800	8.5
シンガポール	37,433	40,500	8.2	390,356	430,500	10.3
マレーシア	39,905	43,800	9.8	318,136	407,000	27.9
インドネシア	35,081	44,100	25.7	350,601	449,100	28.1
フィリピン	46,618	51,600	10.7	542,822	591,300	8.9
ベトナム	45,857	50,400	9.9	479,918	529,800	10.4
インド	17,865	25,400	42.2	170,812	233,400	36.6
豪州	85,667	96,600	12.8	637,273	755,200	18.5
米国	191,942	224,700	17.1	1,960,146	2,397,700	22.3
カナダ	49,981	55,600	11.2	417,316	494,600	18.5
メキシコ	14,972	19,700	31.6	107,083	137,900	28.8
英国	37,413	47,100	25.9	318,224	391,900	23.2
フランス	30,745	38,800	26.2	283,844	331,900	16.9
ドイツ	37,092	52,800	42.3	241,551	319,400	32.2
イタリア	19,592	28,900	47.5	168,732	227,900	35.1
スペイン	19,052	24,700	29.6	129,580	179,000	38.1
ロシア	10,187	21,200	108.1	63,832	129,200	102.4
北欧地域	12,692	17,400	37.1	109,106	140,000	28.3
中東地域	14,194	29,700	109.2	113,691	183,900	61.8
その他	130,668	180,000	37.8	1,051,531	1,364,800	29.8

表 5 2025 年 7 月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)
	7月	7月		7月	7月		7月	7月		7月	7月	
総数	3,292,602	3,437,118	4.4	3,055,187	3,161,501	3.5	96,045	98,506	2.6	141,370	177,111	25.3
韓国	757,679	678,566	-10.4	730,371	649,535	-11.1	15,157	13,742	-9.3	12,151	15,289	25.8
中国	776,520	974,564	25.5	712,606	893,601	25.4	25,367	28,701	13.1	38,547	52,262	35.6
台湾	571,698	604,177	5.7	558,802	589,216	5.4	7,524	7,653	1.7	5,372	7,308	36.0
香港	279,069	176,019	-36.9	275,751	172,314	-37.5	1,881	1,561	-17.0	1,437	2,144	49.2
タイ	53,494	48,553	-9.2	49,406	44,272	-10.4	2,020	1,994	-1.3	2,068	2,287	10.6
シンガポール	28,115	24,304	-13.6	25,758	22,061	-14.4	1,974	1,790	-9.3	383	453	18.3
マレーシア	19,260	18,112	-6.0	17,353	15,905	-8.3	1,174	1,333	13.5	733	874	19.2
インドネシア	29,571	37,612	27.2	19,564	23,699	21.1	1,340	1,330	-0.7	8,667	12,583	45.2
フィリピン	55,466	47,366	-14.6	45,391	36,714	-19.1	4,363	4,364	0.0	5,712	6,288	10.1
ベトナム	49,733	53,538	7.7	19,474	15,556	-20.1	3,098	3,246	4.8	27,161	34,736	27.9
インド	14,941	18,297	22.5	7,782	10,782	38.6	4,315	4,631	7.3	2,844	2,884	1.4
豪州	48,616	50,174	3.2	45,916	47,521	3.5	1,696	1,606	-5.3	1,004	1,047	4.3
米国	251,218	277,080	10.3	236,813	263,389	11.2	9,064	8,495	-6.3	5,341	5,196	-2.7
カナダ	48,158	52,087	8.2	46,740	50,478	8.0	740	705	-4.7	678	904	33.3
メキシコ	16,011	19,778	23.5	15,521	19,415	25.1	280	168	-40.0	210	195	-7.1
英国	32,910	37,098	12.7	29,560	33,529	13.4	1,940	1,836	-5.4	1,410	1,733	22.9
フランス	37,353	46,196	23.7	34,434	43,090	25.1	1,610	1,437	-10.7	1,309	1,669	27.5
ドイツ	22,685	28,087	23.8	19,666	25,046	27.4	2,151	2,192	1.9	868	849	-2.2
イタリア	18,370	21,833	18.9	17,050	20,179	18.4	865	1,077	24.5	455	577	26.8
ロシア	5,675	11,266	98.5	4,604	10,188	121.3	623	559	-10.3	448	519	15.8
スペイン	18,687	24,056	28.7	17,864	23,117	29.4	410	413	0.7	413	526	27.4
中東地域	12,826	19,993	55.9	11,786	18,603	57.8	634	772	21.8	406	618	52.2
その他	144,547	168,362	16.5	112,975	133,291	18.0	7,819	8,901	13.8	23,753	26,170	10.2

注：目的別訪日外客数の定義については、図 3 注参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域
出所：日本政府観光局(JNTO)、2025 年 10 月 15 日付より筆者作成